

3204 377

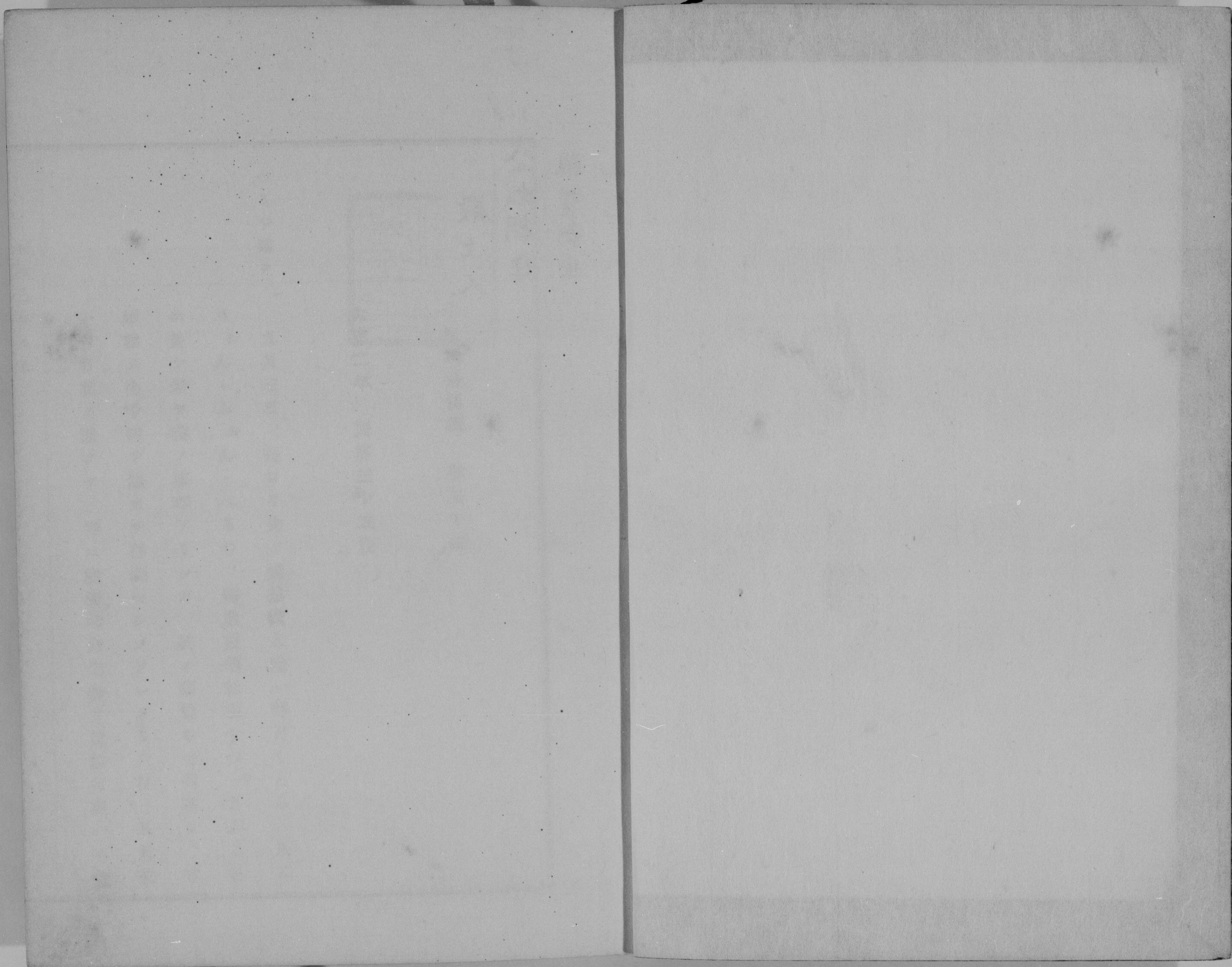
大正天皇實錄

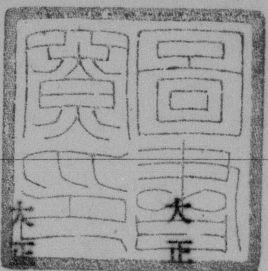
卷五十三

圖書寮	
編號	64047
冊數	97
函號	秘 4

7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90 1 2 3 4 5 6 7 8 9

3204 378





大正天皇實錄 卷五十三
大正二年 實算三十五歲

べるつ遊々

九月三日、是ヨリ先、獨逸國人勳一等どくとる、ある
うらん・ふむん・べるつ、獨逸國伯林在すつとがると
ニ於テ老ヲ養フ事年アリシガ、其ノ病篤キヲ聞召シ、本
年初メ金千圓ヲ賜ヒテ存問センメラレタリ。後、八月三
十一日其ノ逝クヤ、特ニ駐獨特命全權大使杉村虎一ニ命

大正二年九月

ジ、是ノ日銀製花環ヲ靈前ニ供ヘシム。猶ホべるつヲ御
追想アリテ聖作アリ。

倬伯兒都博士

明治八年遠來尋 大學教授造詣深 外邦名醫推泰斗
屢入官中盡其心 記得幼時知博士 平素溫和有德音
且愛東土施仁術 蕪陶門人能吐忱 波濤萬里重超海
既歸故郷住杏林 一旦疾病遂不起 如今遺恨又難禁
ト。蓋シべるつ往年久シク侍醫寮ノ醫務顧問ト爲リ、東
宮御時代屢、御遠例ニ奉仕シテ功勞顯著タリシヲ以テナ
リ。大正天皇御製集
稿本・恩賜録

阿部守太郎
卒ス

六日、外務省政務局長正五位勳二等阿部守太郎ヲ特命
全權公使ニ任ジ、特ニ位一級ヲ進メ從四位ニ敘シ、勳一
等瑞寶章ヲ授ケラル。是ヨリ先、南支那ニ於ケル支那官
民ノ侮辱行爲漸ク甚シク、所謂兗州、漢口兩事件トナリ
テ帝國ニ傳ヘラルルヤ、輿論忽然トシテ對支問題ニ向ヒ、
政府ノ外交政策ノ軟弱ヲ慨嘆スル者アリ、此ノ時ニ當リ
偶々南京事件勃發ス。是ヲ以テ岡田滿等ハ阿部政務局長
機宜ヲ失シタルニ基因スト思惟シ、昨五日途ニ要シテ之
ヲ殫ス。卒スルニ及ビ祭葬料ヲ賜ヒ、十日送葬ニ當リ侍
從子爵海江田幸吉ヲ勅使トシテ其ノ邸ニ遣シ、幣帛ヲ賜

フ。盡シ守太郎多年職務ニ精勵シ、殊ニ帝國ト支那國トノ親善ニ努メタル功績抄カラザリシニ、却ツテ凶刃ニ斃レタリシヲ以テナリ。恩賜錄
官報

是ノ日、溜子内親王三十年式年祭ニヨリ侍従子爵東園基愛ヲ靈殿竝ビニ墓所ニ遣シ代拜セシメラル。猶ホ八日ニハ章子内親王三十年式年祭ニヨリ侍従子爵松浦靖ヲ、十八日ニハ稚瑞照彦尊四十年式年祭ニヨリ侍従田内三吉及ビ同原恒太郎ヲ、靈殿竝ビニ墓所ニ遣シ代拜セシメラレタリ。侍従職日記・祭
記録・儀式錄
十五日、午前九時十分田母澤御用邸御出門、皇后ト俱

田母澤御用邸ヨリ還幸

圖書寮

供奉員

ニ天機廳シク午後一時五十五分宮城ニ還幸アラセラル。尋イデ皇太子裕仁親王ヲ始メ雍仁親王。宣仁親王ニ謁ヲ賜フ。因ニ駐蹕中供奉ヲ命ゼラレタル者ハ、宮内大臣伯爵渡邊千秋。侍従長公爵鷹司照通。侍従武官長男爵中村覺。宮内書記官大木彝雄。同公爵岩倉具張。同男爵小原監吉。同柳田國男。同松根豐次郎。宮内大臣秘書官上野季三郎。内大臣秘書官日高秩父。同高橋嶠。侍従職幹事男爵米田虎男。侍従日根野要吉郎。同日野西資博。同原恒太郎。同大炊御門家政。同石山基陽。同子爵松浦靖。同子爵海江田幸吉。同田内三吉。同伯爵清水谷實英。同

明治十年以後
後亮去ノ皇
親ノ靈ヲ皇
靈殿ニ合祀

男爵澤宣元。同高辻宜麿。同子爵松平慶民。同男爵徳川
 義恕。侍從武官關野謙吉。同若見虎治。侍醫相磯健。同
 片山芳林。同土屋岩保。同池邊棟三郎。皇后宮大夫事務
 取扱馬場三郎。皇后宮職御用掛萬里小路幸子。同園祥子。
 皇后宮禮典侍正親町鍾子等ナリ。猶ホ駐蹕中侍從武官長
 ノ更迭アリ、中村侍從武官長轉補ノ後ハ新任侍從武官長
 内山小二郎ニ供奉ヲ命ゼラレタリ。侍從職日記。侍從武
 官府日誌。典侍日記。
 官報
 幸等録
 二十日、明治十年以後亮シタル皇親ノ諸靈ヲ皇靈殿ニ
 合祀セシメ、侍從男爵徳川義恕ヲシテ代拜セシム。

セシメラル

参内
贈子女王初

因ニ今同合祀セラレタルハ、薫子内親王。敬仁親王。紹
 子内親王。章子内親王。静子内親王。猷仁親王。輝仁親
 王。多喜子内親王。淑子内親王。博經親王。轍仁親王。
 續子女王。熾仁親王。裁仁王。貞敬親王妃明子。昭徳王。
 宗諱女王。邦家親王妃景子。篤仁王。博厚親王。博經親
 王妃郁子。晃親王。菊麿王妃範子。菊麿王。邦憲王。暢
 王。懐子女王。一言足彦命。飛呂子女王。朝彦親王。守
 脩親王。延久王。信子女王。能久親王並ビニ彰仁親王ノ
 御靈ナリ。侍從職日記。儀
 式録。祭記録
 二十二日、表御座所ニ於テ恒久王妃昌子内親王並ビニ

學彥王・佐和子女王初參内

秋季皇靈祭ニ御拜

禮子女王ニ謁ヲ賜フ。蓋シ女王ハ恒久王ノ第一女子ニシテ去ル七月四日生レ、茲ニ初メテ賢所參拜竝ビニ参内ヲ行ヘルナリ。仍リテ御祝品白羽二重其ノ他ヲ賜フ。猶ホ十月八日ニハ學彥王、十二月九日ニハ佐和子女王ノ初参内アリ。其ノ儀今日ノ如シ。學彥王ハ鳩彦王第一男子ニシテ母ハ允子内親王ナリ。又佐和子女王ハ成久王第二女子ニシテ母ハ房子内親王ナリ。侍從職日記・儀式錄・恩賜錄・官報・祭禮錄

二十四日、秋季皇靈祭ニヨリ綾綺殿ニ渡御、御服ヲ改メ皇靈殿ニ御拜アラセラル。侍從職日記・儀式錄・官報・祭禮錄・儀

式錄・官報

圖書寮

親補式

皇太后ト御會食

二十五日、午前十時表御座所ニ於テ親補式ヲ行ハセラレ、海軍大學校長海軍中將從四位勳二等功三級八代六郎ヲ舞鶴鎮守府司令長官ニ補ス。又海軍中將從三位勳二等功二級男爵三須宗太郎ヲ海軍大將ニ任ジ、海軍將官會議員ニ補ス。午前十一時工兵監陸軍中將落合豐三郎以下召集ニヨリ上京セル工兵隊長二十二名ニ謁ヲ賜フ。侍從職日記・儀式錄・官報

二十六日、竹間ニ於テ皇太后俱ニ御内宴ヲ催サセラレ、午前十一時五十分ヨリ皇太后ト御會食アリ。蓋シ其ノ御儀シニ關シテハ左ノ聖作ニヨリテ叙慮ヲ拜シ奉ルベシ。

皇太后將詣桃山陵開內宴奉饌

新秋移居入皇宮 今日內宴意何窮 慰勸招邀皇太后

座有懿親歡相同 別召臣僚午賜饌 涼氣隨風滿簾櫳

回首桃山陵自遠 山河相隔西與東

御製ニ宣ヘル如ク、御内宴ニ當リテハ皇妹昌子内親王並

ビニ貞愛親王ヲモ召シ、且ツ宮内大臣伯爵渡邊千秋。皇

太后宮大夫伯爵香川敬三。侍從武官長内山小二郎。侍從

長公爵鷹司源通。公爵一條實輝。同九條道實。宮内次官

河村金五郎。皇后宮大夫事務取扱馬場三郎。皇后官職御

用掛柳原愛子。同山中貞子。皇太后官權典侍姉小路良子

高齡華族ニ
賜杯

ニモ亦陪食ヲ賜ヘリ。侍從職日記。侍從武官府日記。典
大正天皇御 侍日記。皇太后宮職日記。宣召錄。
製集稿本

是ノ日、八十歳ニ達セル從二位勳一等男爵細川潤次郎。

從二位勳一等男爵堤正直。正三位勳一等男爵奈良原繁、

七十歳ニ達セル正二位勳一等伯爵佐久間左馬太。從二位

勳一等功一級伯爵黒木爲楨。從二位勳三等伯爵上杉茂憲。

從二位勳一等子爵青木周藏。從二位勳一等子爵高島朝之

助。正三位勳一等功二級子爵大迫尙敏。正三位勳一等男

爵松平正直。正三位勳一等男爵小澤武雄。正三位男爵常

磐井堯熙ニ御紋附御杯並ビニ酒肴料ヲ賜ヒ、又故從二位

はりそん比
總督ヲ御引
見

勳一等功三級男爵野田露通。故從二位勳一等男爵鍋島幹
ハ七十歳ヲ以テ薨ゼルニヨリ御紋附御盃及ビ酒肴料ヲ遣
賜セララル。官報

二十七日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、亞米利加合
衆國特命全權大使ジョージ・ウゐるきんす・がすりーノ
帶同セル比律賓總督おのれーぶる・ふらんしす・ばーと
ん・はりそんヲ引見アラセラル。侍從職日記、侍從武官
府日誌、謁見録、官報

二十九日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、歐羅巴。亞
米利加諸國ニ赴ク臺灣總督府工部技師山形要助ニ謁ヲ
賜フ。侍從職日記、侍從武官府
日誌、謁見録、官報

圖書寮

亞爾爾立百
年記念祝典
ヲ祝セララル

おるちす亞
爾爾使節
ヲ御引見

三十日、曩ニ亞爾然丁國獨立百年記念祝典ニ際シ、帝
國ヨリ特命全權公使日置益ヲ特派使節トシテ參列セシメ、
且ツ巡洋艦生駒ヲ廻航セシメタリシニ對シ、同國大統領
ろーけ・さえんす・ペにヤハ其ノ報答竝ビニ同國政府及
ビ人民ノ謝意ヲ傳奏セシメント欲シ、本邦駐劄同國代理
公使ふらんしすこ・おるちすヲ今般特派使節ニ任ジ、信
任狀ヲ捧呈セシム。是ノ日即チおるちす特派使節參内ス
ルヲ以テ午前十一時五十分鳳凰閣ニ出御、引見アラセラ
ル。尋イデ豐明殿ニ於テ午餐ノ御催アリ、貞愛親王。守
正王ヲ召シ、おるちす及ビ内閣總理大臣伯爵山本權兵衛。

亞國軍艦さ
るみえんと
歸來航

宮内大臣伯爵渡邊千秋。外務大臣子爵牧野伸顯。式部長
官伯爵戸田氏共。侍從武官長内山小二郎。侍從長公爵鷹
司照通等ニ陪食ヲ賜フ。

猶ホ翌大正三年六月同國軍艦ぶれしでんで、さるみえ
んと號重ネテ答禮ノ爲メ來航セルヲ以テ、同月十八日午
前十時三十分鳳凰間ニ於テおるちす公使ノ帶同セル艦長
海軍中佐あべる・れなると並ビニ副長海軍少佐ぼるへ・
かむぼす・うるきーさヲ引見アラセラレタリ。侍從職日
記・侍從
武官府日誌・
謁見録・官報
十月一日、恒憲王、皇護院ノ假寓ヨリ京都市下京區ナ

圖書寮

ル新邸ニ移徙ニヨリ物ヲ賜フ。皇親
錄

四日、午前十時三十分鳳凰間ニ出御、海外ニ赴ク鐵道
院技師中村謙一及ビ第四高等學校教授山本鬼一ニ謁ヲ賜
フ。又六日ニハ海外ヨリ歸朝セル遞信書記官田邊治通及
ビ通信技師池田武智ニモ謁ヲ賜ヘリ。侍從職日記・侍從
武官府日誌・拜謁
參拜録・
官報

是ノ日、西班牙國皇帝どん・あるふもんそ第十三世ヨ
リ親書ニテ皇后ドニヤ・サのくとりあ・いうへにあ去ル
六月二十日分曉、皇子誕生ノ旨ヲ報道アリ、依リテ是ノ
日祝賀ノ親書ヲ發送アラセラル。外交庶
務録

高輪東宮假御所ニ行幸

五日、午前九時御出門、皇后ト俱ニ高輪ナル東宮假御所ニ行幸、皇太子裕仁親王ニ賜ヲ賜ヒ、御盥餐ニ當リ皇太子ヲ始メ宮内大臣伯爵渡邊千秋。東宮大夫男爵波多野敬直。侍從長公爵鷹司照通。侍從武官長内山小二郎。學習院長子爵大迫尙敏。宮内次官河村金五郎。學習院御用掛子爵小笠原長生。皇后宮大夫事務取扱馬場三郎。東宮武官長男爵山根一貫。皇后宮職御用掛柳原愛子。禮典侍正親町鍾子ニ陪食ヲ賜フ。尋イデ内庭御遊歩ノ後、活動寫眞ヲ觀覽、午後五時五分還御アラセラル。猶ホ茲ニ屢々賜ヲ賜ヘル皇族ヲ列記スレバ、皇太子ノ外、雍仁親王。

えるほつそ
智利國公使信
任狀捧呈

大總統就
任式ヲ賀シ

宣仁親王ヲ始メ貞愛親王。敬仁親王。依仁親王。邦彦王。鳩彦王。恒久王。成久王アリ、又皇妹昌子内親王。允子内親王。聰子内親王ニモ同様ノコトアリ。就中、貞愛親王ハ御乘馬御相手ノタメ召サルルコト屢次ニ及ベリ。侍從職日記。侍從武官府日記。典侍日記。官報

七日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、智利國特命全權公使どん・ふらんしすこ・ほつた。えるほつそヲ御引見信任狀及ビ前任公使ノ解任狀ヲ受ケサセラル。侍從職日記。官報

十日、袁世凱、支那共和國大總統就任式終了ニ際シ、

給フ

祝賀ノ電報ヲ發送アラセラル。其ノ文ニ曰ク、
 支那共和國大統領袁世凱閣下
 閣下ノ支那共和國第一次大統領ニ就任ノ式典舉行セ
 ラレタルニ當リ朕ハ斯ノ一代ノ盛事ニ對シ閣下ニ向
 テ至誠ノ祝意ヲ表ス
 閣下今ヤ高職ニ任ス朕ハ誠實ニ其ノ成效ヲ祈リ且閣
 下ノ賢明ナル指導ノ下ニ朕ノ常ニ鞏固ニセンコトヲ
 欲シタル日支兩國友好善隣ノ關係ハ益々密接ヲ加ヘ
 兩隣邦互ニ其ノ惠ニ浴スルニ至ルヘキヲ信セムトス
 ト。因ニ帝國ハ本月六日列國ニ先ダチテ支那共和國ヲ承

圖書寮

認スル處アリ。袁大統領ヨリ之ニ對シ謝禮ノ電報ヲ奉リ
 シカバ、昨九日之ニ對シ、

朕ハ閣下カ支那共和國大統領ニ選舉セラレタル旨閣
 下ノ告知ヲ領シ茲ニ閣下ノ高職ニ舉ケラレタルニ對
 シ至誠ノ祝意ヲ表ス
 朕ハ曩ニ右選舉ノ報ニ接シ貴國ニ於テ假政府ニ代リ
 テ正式政府ノ建設セラレタルヲ知り欣快ニ堪ヘス朕
 ノ政府ヲシテ今次閣下カ統御ノ大任ヲ委ネラレタル
 貴共和國ニ對シ直ニ完全ナル承認ヲ與ヘシメタリ斯
 ノ如ク速ニ承認ノ舉ニ出テタルハ我帝國ノ平素貴國

政府ニ對シテ有スル好意同情ヲ表明セムカ爲ナリ
朕ハ斯ノ機會ニ於テ幸ニ確立スルニ至レル貴共和國
ノ爲ニ平和ト繁榮ヲ祈リ併セテ閣下ノ十全ナル健康
及幸福ヲ禱ル

大正二年十月九日

御名

ト、御答禮アリ。後、就任ヲ報ズル親書アリシヲ以テ十
二月十五日更ニ御答翰ヲ發送アラセラレタリ。外交庶務
録・官報
是ヨリ先、陸軍大將正二位大勳位功三級公爵桂太郎病
ヲ神奈川縣鎌倉町岩下周平ノ別邸ニ養フ事數十日ニ及ブ

桂太郎薨ズ

圖書寮

桂太郎ニ就
詞ヲ賜フ

ヲ以テ、既ニ屢々侍臣ヲ遣シ、慰問アラセラレシガ、是
ノ日特ニ位一級ヲ進メ從一位ニ敘シ、菊花章頸飾ヲ加授
セララル。翌十一日、遂ニ薨ズ。因リテ侍從男爵澤宣元ヲ
弔問使トシテ其ノ邸ニ遣シ、尋イデ十八日侍從田内三吉
ヲ勅使トシテ其ノ邸ニ遣シ、祭料金五千圓。幣帛。供
物ヲ賜ヒ、左ノ諒詞ヲ傳宣セシム。

夙ニ身ヲ戎馬ニ委ネ深ク力ヲ經綸ニ致シ屢補衰ノ任
ニ膺リ又締盟ノ效ヲ奏シ勳績愈彰ル朕尙ホ他日ニ待
ツ所アリシニ忽チ溢亡ヲ聞ク曷ゾ痛惜ニ勝ヘン茲ニ
侍臣ヲ遣シ賻ヲ齎シ以テ弔慰セシム

太郎ノ略歴

後、更ニ勅使侍従子爵松浦靖ヲシテ焼香セシム。十九日葬儀ヲ行フニ當リ、侍従大炊御門家政ヲ勅使トシテ斎場ニ遣シ、焼香セシメラル。

太郎、明治七年陸軍歩兵大尉ニ任ゼラレ、爾來身ヲ陸軍ニ委ネ、累進シテ同二十三年陸軍中將ト爲リ、明治二十七八年戦役ニ從軍シテ功アリ、勳一等瑞寶章並ビニ功三級金鷄勳章ヲ賜ヒ、且ツ華族ニ列シ子爵ヲ授ケラル。

同三十一年陸軍大將ニ任ゼラレ、同三十五年伯爵ニ陞爵、位從二位ニ至ル。明治三十七八年戦役ニ當リテハ内閣總理大臣ノ重職ヲ奉ジテ功アリ、同三十九年大勳位菊花大

伯爵ニ依リタル

綬章ヲ賜ヒ、尋イデ伯爵ニ依リ同四十年侯爵ニ、更ニ同四十四年公爵ニ陞セラレ、位既ニ正二位タリ。是ヨリ先壯年ニシテ屢々海外ニ職ヲ奉ジテ夙ニ歐洲各國ノ情況ニ通ジ、晩年ニ及ビテハ明治三十一年陸軍大臣トナリ、同三十四年ニハ内閣總理大臣ニ擢デラレ、爾來、内閣ノ首班ニ任ゼラルルコト二回、明治天皇登遐ノ後ハ、特ニ優詔ヲ賜ヒ元老トシテ遇セラレ、時ニハ内大臣兼侍從長ノ職ヲ奉ジテ側近ニ侍ス等、其ノ功績顯著タリシヲ以テナリ。

侍從職日記・恩賜錄・華曆錄・典侍日記・官報・公爵桂太郎傳

十五日、英吉利國皇族あーさー・おぶ・こんのーと親

こんのーと親王ノ結婚

ヲ祝シ給フ

大正二年十月

二四

神嘗祭ニ付
々御拜

王、皇姪だつちえす・おぶ・ふあいふ・ぶりんせす・あれきさんどら・ケゝくとりあ・あるべるた・えどうのな。るいずト結婚式舉行ニヨリ祝賀ノ電報ヲ發送アラセラル。猶ホ式ニ先ダテ御祝品トシテこんのーと親王ニ金地秋草蒔繪手箱壹個ヲ御贈進アリ。外交庶務
録・官報

十六日、午前十時二十分鳳凰閣ニ於テ獨逸國ニ赴ク第一高等學校教授丸山通一ニ、表御座所ニ於テ特命全權公使伊集院彦吉・内閣總理大臣伯爵山本權兵衛ニ謁ヲ賜フ。侍從職日記・侍從武官府日誌・侍從職日記・拜謁參拜録・官報

十七日、神嘗祭ニヨリ午前十時綾綺殿ニ渡御、賢所ヲ

圖書寮

京都ニ行幸

大正二年十月

二五

御拜アラセラル。猶ホ神宮ニハ掌典北郷久政ヲ勅使トシテ參向セシメ、奉幣ノ儀ヲ行ハシム。侍從職日記・侍從武官府日誌・典侍日記・祭記
録・官報

十八日、伏見桃山陵親謁ノ爲メ午前六時三十五分皇后ト俱ニ御出門、貞愛親王ヲ隨へ、宮内大臣伯爵渡邊千秋。侍從長公爵鷹司照通以下ヲ供奉セシメ、西下アラセラル。新橋停車場ニ於テ皇太后御使皇太后宮職御用掛公爵一條實輝。皇太子御使東宮大夫男爵波多野敬直。載仁親王。同妃智恵子。博恭王。同妃經子。鳩彦王。稔彦王。成久王。恒久王。依仁親王妃周子。邦彦王妃規子以下諸員ニ

名古屋ニ駐
登

伏見桃山陵
ニ御拜

謁ヲ賜フコト恒ノ如シ。午後四時名古屋停車場ニ御下車、同二十五分名古屋離宮ニ御安著、第三師團長陸軍中將岡市之助。愛知縣知事松井茂以下ニ謁ヲ賜ヒ、同所出陣ノ縣下諸物産ヲ御一覽アリ。十九日午前九時二十分御出門名古屋停車場ヨリ再ビ汽車ニ乘御、大垣。米原。大津ノ各停車場ヲ經テ午後一時五十二分京都停車場御下車、二時二十分京都御所ニ安著アラセラル。著御ノ後、多嘉王ヲ始メ文武官ニ謁ヲ賜フ。尋イデ紫宸殿御庭ニ於テ消火設備ノ實演ヲ行ハシメ、之ヲ觀覽アラセラル。二十日午前九時皇后ト俱ニ御馬車ニテ御出門、十時五分伏見桃山

圖書寮

泉山御陵ニ
御拜

京都發轅

陵ニ御著、陵門外ニテ御下車、便殿ニ於テ御少憩ノ後、諸陵頭山口銳之助ニ先導セシメ、御參拜アリ。十一時四十五分泉山ニ行幸、後月輪東山陵。後月輪東北山陵。後月輪陵ニ御巡拜、夫ヨリ泉涌寺ニ御立寄アリ、貞愛親王ヲ召シテ御晝餐ニ陪セシム。尋イデ午後二時京都御所ニ還幸、皇后ハ歸途、九條家菩提所ナル東福寺ニ御立寄、四時十分還啓アラセラル。斯クテ明治天皇山陵ヲ始メ孝明。仁孝。光格三天皇ノ山陵竝ビニ英照皇太后ノ山陵ニ御拜ヲ濟マセラレタルヲ以テ、二十一日午前七時三十分京都御所御出門、皇后ト俱ニ京都停車場ヨリ汽車ニ乘御

靜岡御用邸
ニ御一泊

還幸ノ途、靜岡停車場ニテ御下車、靜岡御用邸ニ御一泊アリ、二十二日午後二時四十五分新橋停車場ニ著御、龍

宮城ニ還幸

顔麗シク三時五十分宮城ニ還幸アラセラル。

是ヨリ先、京都市駐蹕ノコトハ踐祚後最初ノ故ヲ以テ

京都市以下
ニ期合

特別ノ思召アリ、乃チ同市ニ金參千圓ヲ、又名古屋。靜

岡兩市ニ金五百圓宛ヲ賜ヘリ。

供奉員

猶ホ行幸啓ニ當リ供奉ヲ命ゼラレタル者ハ、宮内大臣

伯爵渡邊千秋。宮内次官河村金五郎。宮内大臣秘書官上

野季三郎。宮内書記官松根豐次郎。侍從長公爵藤司照通。

侍從日根野要吉郎。同日野西資博。同高辻宜廣。同子爵

陸軍騎兵實
施學校ニ行
幸

海江田幸吉。同男爵徳川義恕。同石山基陽。侍從武官長
内山小二郎。侍從武官關野謙吉。同若見虎治。同島内桓
太。同奥村拓治。同西義一。皇后宮大夫事務取扱馬場三
郎。皇后宮主事務取扱原恒太郎。皇后宮職御用掛柳原
愛子。同千種任子。皇后宮禮典侍正親町鍾子。侍醫池邊
棟三郎。同土屋岩保等ナリ。侍從職日記・侍從武官府日
誌・典侍日記・幸時録・恩
賜録・愛知
縣廳文書

二十七日、午前九時御出門、陸軍騎兵實施學校ニ行幸、
便殿ニ於テ邦彦王ヲ始メ參集ノ各將校及ビ校長陸軍騎兵
大佐森岡守成等ニ謁ヲ賜ヒ、夫ヨリ馬場運動。離路通過。

伏見宮邸ニ
行幸

大障得飛越。不齊地競馬。乘馬中隊戰鬪教練等騎兵ノ肄業ヲ觀覽アリ、尋イデ修業證書授與式場ニ臨御、優等生ニ賞ヲ賜フ。式了リテ午後零時二十分還幸アラセラル。侍從職日記・幸啓錄・侍從武官府日誌・典侍日記・官報

二十八日、午前九時御出門、皇后ト俱ニ伏見宮邸ニ行幸、貞愛親王。博恭王妃經子並ビニ侯爵山内豐景。同妻禎子ニ謁ヲ賜ヒ、御晝餐ニ陪セシメラル。其ノ前後、講談。能。活動寫眞等ノ御慰アリ、午後四時四十五分還御アラセラル。猶ホ親王。同妃利子女王其ノ他ニ物ヲ賜ヘリ。侍從職日記・侍從武官府日誌・貞愛親王事蹟・官報

圖書寮

天長節祝日
觀兵式臨幸

御賀ヲ受ケ
ナセラル

三十一日、天長節祝日ニヨリ午前八時御出門、青山練兵場ニ行幸、便殿ニ於テ皇族。元帥。親任官及ビ各國使臣等ニ謁ヲ賜ヒ、觀兵式諸兵指揮官陸軍大將鞍仁親王以下皇族ヲ隨ヘテ閱兵アラセラレ、尋イデ分列式ヲ觀覽、十時四十分還幸アラセラル。

午前十一時表御座所ニ於テ貞愛親王。宮内大臣伯爵渡邊千秋。侍從長公爵鷹司照通。侍從武官長内山小二郎以下侍從。侍從武官ニ、尋イデ鳳凰間ニ於テ皇族。宮内親任官。同待遇以下勅任待遇以上ノ者ニ、尋イデ正殿ニ於テ伯爵男爵及ビ有位華族ニ謁ヲ賜フ。

伏見宮邸ニ
行幸

大障得飛越。不齊地競馬。乘馬中隊戰團教練等騎兵ノ肄業ヲ觀覽アリ、尋イデ修業證書授與式場ニ臨御、優等生ニ賞ヲ賜フ。式了リテ午後零時二十分還幸アラセラル。

侍從職日記・幸啓錄・侍從武官府日記・典侍日記・官報

二十八日、午前九時御出門、皇后ト俱ニ伏見宮邸ニ行幸、貞愛親王。博恭王妃經子竝ビニ侯爵山内豐景。同奏禎子ニ謁ヲ賜ヒ、御晝餐ニ陪セシメラル。其ノ前後、講談。能。活動寫眞等ノ御慰アリ、午後四時四十五分還御アラセラル。猶ホ親王。同妃利子女王其ノ他ニ物ヲ賜ヘリ。

侍從職日記・侍從武官府日記・貞愛親王事談・官報

天長節祝日
觀兵式臨幸

拜賀ヲ受ケ
サセラル

三十一日、天長節祝日ニヨリ午前八時御出門、青山練兵場ニ行幸、便殿ニ於テ皇族。元帥。親任官及ビ各國使臣等ニ謁ヲ賜ヒ、觀兵式諸兵指揮官陸軍大將鐵仁親王以下皇族ヲ隨ヘテ閱兵アラセラレ、尋イデ分列式ヲ觀覽、十時四十分還幸アラセラル。

午前十一時表御座所ニ於テ貞愛親王。宮内大臣伯爵渡邊千秋。侍從長公爵鷹司照通。侍從武官長内山小二郎以下侍從。侍從武官ニ、尋イデ鳳凰間ニ於テ皇族。宮内親任官。同待遇以下勅任待遇以上ノ者ニ、尋イデ正殿ニ於テ伯子男爵及ビ有位華族ニ謁ヲ賜フ。

御祝宴

正午豊明殿ニ出御、祝宴ヲ御催アリ、貞愛親王。戴仁親王。依仁親王。邦彦王。鳩彦王。成久王。恒久王及ビ親任官以下勅任官待遇以上ノ者竝ビニ各國使臣等七百八十名之ニ陪ス。玉座ニ著御ノ後勅語アリ、

朕生誕ノ祝日ニ當リ各國代表者竝ニ諸大臣等ト宴ヲ開キ歡ヲ共ニスルハ朕ノ満足スル所ナリ茲ニ友邦代表者ノ君主及大統領ノ健康ヲ祝シ併セテ交際ノ益ヲ親密ナラムコトヲ望ム

内閣總理大臣ノ奉答文

ト。是ニ於テ内閣總理大臣伯爵山本權兵衛群臣ヲ代表シテ

外臣ノ奉答

茲ニ天長節祝日ニ方リ群臣ヲ御宴ニ召シ且ツ優渥ナル勅語ヲ賜フ^{臣等}感激ノ至リニ堪ヘス^{臣權兵衛群臣}ニ代リ敬テ天恩ノ厚キヲ謝シ恭シク聖壽無疆ヲ祝シ奉ル

ト奉答文ヲ奏シ、又佛蘭西國特命全權大使おーざゆすと。じまらゝる外國使臣ヲ代表シテ

陛下ノ本使等ニ賜リタル優渥ナル勅語ニ對シ本使ハ外交官一同ニ代リ恭シク感謝ノ意ヲ表シ奉ル本使等ノ君主及大統領モ亦此ノ勅語ニ對シ深く満足セラレヘキコトヲ確信ス

茲ニ天長節祝日ニ當リ本使等一同恭敬ノ祝詞ヲ奏シ
 併セテ陛下皇后陛下皇太后陛下及皇族各殿下ノ萬壽
 ヲ禱リ尙ホ陛下ノ治世日本帝國ノ安寧國民ノ幸福ヲ
 増進シ其友邦トノ間ニ於ケル好敵ヲシテ益々親密ナ
 ラシメンカ爲メ隆盛無窮ナラムコトヲ冀フ
 ト奉答スル處アリ。御宴中、式部職樂部ノ歐洲樂演奏ア
 リ、午後一時七分宴畢リテ入御アラセラル。即チ御内儀
 ニ於テ皇太后ニ御對顔、皇太子裕仁親王ニ謁ヲ賜フ。侍
職日記・侍從武官府日誌・皇
太后宮職日記・儀式錄・官報
 是ノ日、埃地利匈牙利國皇帝。支那國大統領。暹羅國

圖書寮

沼津町ニ御
料地ノ一部
ヲ賜フ

大正二年十一月

三五

皇帝。獨逸國皇帝。白耳義國皇帝。英吉利國皇帝。西班
 牙國皇帝ヨリ天長節祝日祝賀ノ電報ヲ寄セタルヲ以テ、
 夫々答禮ノ電報ヲ發送アラセラル。外交廣弔
錄・官報
 十一月四日、午前十時三十分御座所ニ於テ任地伊太利
 國ニ赴ク特命全權大使男爵林權助ニ謁ヲ賜フ。拜謁參拜
錄・侍從
職日記・
官報
 五日、公爵德大寺實則三男德大寺則廣。從一位德川慶
 喜九男德川誠公爵德川ニ男爵ヲ授ケラル。授爵錄・
官報
 是ノ日、沼津町ニ同町條内町ノ御料地一町七畝二十步
 ヲ賜フ。蓋シ交通。衛生。防火等ノ施設ニ便ゼシムル爲

メナリ。恩賜
録

六日、午前十時四十分鳳凰閣ニ出御、海外ヨリ歸朝セ
ル内閣統計局長花房直三郎。陸軍中將青木宣純。陸軍歩
兵少佐水野竹三並ビニ海外ニ赴ク陸軍少將田中義一。陸
軍歩兵大尉武田額三ニ謁ヲ賜フ。侍從職日記・侍從武官
府日誌・拜謁參拜録

是ノ日、獨逸聯邦巴華里國皇帝るーどういひ昨五日即
位ヲ報ズル電報ヲ寄セタルヲ以テ、之ヲ祝シ答禮ノ電報
ヲ發送アラセラル。外交庶務
録・官報

佛國大使解
任

七日、正午鳳凰閣ニ出御、解任歸國スル佛蘭西國特命

圖書寮

任狀錄呈

文部省美術
展覽會。日
本美術協會
ニ行幸

全權大使おーぎゆすと。じえらゐるヲ御引見、尋イデ豊
明殿ニ出御、午餐ノ御儀アリ、貞愛親王。依仁親王ヲ召
シ、じえらゐる大使並ビニ内閣總理大臣伯爵山本權兵衛。
宮内大臣伯爵渡邊千秋。外務大臣子爵牧野伸顯。特命全
權大使子爵栗野慎一郎。同子爵本野一郎。同男曾林權助
等ニ陪食ヲ賜フ。侍從職日記・侍從武官
府日誌・謁見録・官報

八日、午前九時御出門、上野公園ニ開ケル文部省美術
展覽會ニ行幸、便殿ニ於テ文部大臣奥田義人以下諸員ニ
謁ヲ賜ヒ、美術審査委員長文部次官福原鯨二郎ニ先導セ
シメ會場ヲ觀覽、各科審査主任ノ説明ヲ聞召シ、十時三

十分更ニ日本美術協會ニ臨御、會頭伯爵土方久元以下ニ
 謁ヲ賜ヒ、久元ノ御先導ニテ南館。新館。西館。本館。
 北館。東館ヲ巡覽アラセラル。又便殿ニ於テ出陣ノ弘法
 大師書即身成佛品。坐右銘。變誓指歸ニ就キテハ侯爵松
 方正義ノ御説明ヲ叙聞アリ、東館ニ於テハ岡村梅軒外五
 名ノ製作ヲ天覽、午後三時五分還幸アラセラル。侍從職
 幸辱録。侍從武
 官府日誌。官報

十日、恒例觀艦式親閱ノ爲メ午前六時四十五分御出門、
 八時五十五分横須賀停車場ニ著御、横須賀鎮守府司令長
 官海軍中將山田彦八以下ノ奉迎ヲ受ケサセラレ、逸見波

觀艦式ニ臨

御召艦香取
ニ御移乘

止場ヨリ軍艦香取艦載水雷艇ニ乘御、直ニ御召艦香取ニ
 御移乘、便殿ニ於テ載仁親王。依仁親王ヲ始メ内閣總理
 大臣伯爵山本權兵衛。海軍大臣男爵齋藤實。海軍軍令部
 長海軍大將男爵伊集院五郎。香取艦長海軍大佐岩村國次
 郎以下陪覽者二十八名ニ謁ヲ賜フ。御召艦十時式場ニ到
 リ諸艦ノ列間ヲ徐航シ、御親閱アリ、更ニ第一艦隊。第
 二艦隊ノ陣形運動ヲ行ヒツツ豫定錨地ニ進ムヲ艦橋ヨリ
 觀覽、艦隊ノ運動終ルヤ、横須賀鎮守府艦隊司令官海軍
 少將博恭王。第一艦隊司令長官海軍大將男爵出羽重遠以
 下司令長官。司令官。艦長。司令等四十六名ヲ香取ニ召

十分更ニ日本美術協會ニ臨御、會頭伯爵土方久元以下ニ
 謁ヲ賜ヒ、久元ノ御先導ニテ南館。新館。西館。本館。
 北館。東館ヲ巡覽アラセラル。又便殿ニ於テ出陣ノ弘法
 大師書即身成佛品。坐右銘。學警指歸ニ就キテハ侯爵松
 方正義ノ御説明ヲ叙聞アリ、東館ニ於テハ岡村梅軒外五
 名ノ製作ヲ天覽、午後三時五分還幸アラセラル。侍從職
 日誌。

御艦式ニ臨

十日、恒例觀艦式親閱ノ爲メ午前六時四十五分御出門、
 八時五十分横須賀停車場ニ著御、横須賀鎮守府司令長
 官海軍中將山田彦八以下ノ奉迎ヲ受ケサセラレ、逸見波

御召艦香取
ニ御移乘

止場ヨリ軍艦香取艦載水雷艇ニ乘御、直ニ御召艦香取ニ
 御移乘、便殿ニ於テ依仁親王。依仁親王ヲ始メ内閣總理
 大臣伯爵山本權兵衛。海軍大臣男爵齋藤實。海軍軍令部
 長海軍大將男爵伊集院五郎。香取艦長海軍大佐岩村圓次
 郎以下陪覽者二十八名ニ謁ヲ賜フ。御召艦十時式場ニ到
 リ諸艦ノ列陣ヲ徐航シ、御親閱アリ、更ニ第一艦隊。第
 二艦隊ノ陣形運動ヲ行ヒツツ豫定錨地ニ進ムヲ艦橋ヨリ
 觀覽、艦隊ノ運動終ルヤ、横須賀鎮守府艦隊司令官海軍
 少將博恭王。第一艦隊司令長官海軍大將男爵出羽重遠以
 下司令長官。司令官。艦長。司令等四十六名ヲ香取ニ召

午餐ノ陪食ヲ賜フ

シ、謁ヲ賜ヒ、伊集院海軍軍令部長ヲシテ海軍小演習ニ關スル講評ヲ爲サシム。尋イデ載仁親王。依仁親王ヲ始メ齋藤海軍大臣以下諸員ニ午餐ノ陪食ヲ賜フ。午後一時三十分御召艦香取解纜、横須賀港ニ向フ。三時逸見波止場ニ御上陸、同十分横須賀停車場御發車、五時二十分還幸アラセラル。猶ホ供奉ヲ命ゼラレタル者ハ、宮内次官河村金五郎。宮内書記官松根豐次郎。侍從長公爵鷹司照通。侍從武官長内山小二郎。侍從田内三吉。同高辻宜麿。同原恒太郎。侍從武官關野謙吉。同島内桓太。同西鏡一等ナリ。侍從職日記・典侍日記・侍從武官府日誌・幸略録・官報

山縣有朋等ニ陪食ヲ賜フ

觀菊會

是ノ日、正二位勳一等功一級伯爵伊東祐亨ヲ大勳位ニ敍シ菊花大綬章ヲ授ケラル。官報
 十一日、竹間ニ於テ午餐ノ御催アリ、貞愛親王。博恭王ヲ召シ、元帥公爵山縣有朋。同大山巖。樞密顧問官侯爵松方正義。從一位公爵德大寺實則。内閣總理大臣伯爵山本權兵衛。宮内大臣伯爵渡邊千秋。正二位伯爵土方久元。同田中光顯等ニ陪食ヲ賜フ。
 午後二時御出門、皇后ト俱ニ赤坂離宮御苑ニ行幸、群臣竝ビニ各國使臣ヲ召シ觀菊會ノ御催アリ、萩茶屋ニテ御休憩、皇族ヲ隨ヘ菊花ヲ御巡覽ノ後、陪覽ヲ許サレタ

愛知縣下陸軍特別大演習統裁ノ爲メ御發遣

ル大勳位。各大臣。内外臣僚ヲ立食ニ陪セシメ、四時二十三分還御アラセラル。侍從職日記・典侍日記・侍從武官府日誌・觀菊會錄・官報

是ノ日、文部大臣從三位勳二等奥田義人ニ臨時司法大臣ヲ兼任セシム。司法大臣松田正久病ニ因リテナリ。官報

十二日、愛知縣下ニ於ケル陸軍特別大演習統裁ノ爲メ特ニ貞愛親王ヲ隨へ、午前六時三十五分官城御發遣、午後四時二十五分大本營ナル名古屋離宮ニ著御、爾後、駐蹕六日ニ及バセラル。

抑、本年度ノ陸軍特別大演習ハ、去ル二月二十五日參謀總長陸軍大將子爵長谷川好道ノ上奏ヲ勅裁アラセラレ

圖書寮

十三日ノ御統裁

タル計畫ニ基ヅキ、參加部隊第三。第九。第十五。第十六ノ四個師團ヲ以テ編成シ、東軍司令官ニハ陸軍大將載仁親王、西軍司令官ニハ陸軍大將子爵川村景明ヲ以テ之ニ任ジ、是ノ日既ニ轉戰中ナリ。大本營ニ著御アラセラ

ルルヤ、元帥伯爵奥保鞏。長谷川參謀總長等ニ謁ヲ賜フ。

翌十三日午前十時三十分大本營御出門、愛知郡天白村大字八事山御野立所ニ於テ演習ヲ御統裁、兩軍司令官ヲ御前ニ召シ、其ノ方略ヲ御親授アリ。午後四時還幸、即チ戰況ヲ思召シテ

登八事山監陸軍大習戰偶成

晴日出城跨馬行 路傍民庶幾送迎 揚鞭直登八事山
 山上遠近聞軍聲 百里平地一望裏 東西兩軍勇相爭
 青紅樹色相掩映 近午些暖覺身輕 憶起二十年前事
 先帝統監關精兵 櫻樹猶護駐蹕地 秋風吹恨不堪情
 ノ御製アリ、明治二十三年此ノ地ニ明治天皇大演習ヲ統
 裁アラセラレシヲ忍ビ給ヘリ。六時十分ヨリ約三十分間
 市民ノ提燈行列ヲ天覽、八時三十分登營セル長谷川參謀
 總長ヲシテ、日沒時ニ於ケル戰況ニ因ル兩軍司令官ノ決
 意及ビ處置ノ大要ヲ奏セシメ、又侍從武官奥村拓治ヲ平
 針方面ニ遣シ、兩軍夜間勤務ノ狀況ヲ觀察セシメラル。

圖書寮

十四日ノ御統裁

十四日午前九時御出門、同十二分名古屋停車場御發車
 同五十九分安城停車場御下車、直ニ御乘馬ニテ碧海郡知
 立町字谷田御野立所ニ臨ミ給ヒ御統裁約三時間、偶々此
 ノ日東軍司令官載仁親王ノ執レル處置ニ、西紀一千八百
 五年あうすてるりつつ戰役ニ於テなほれおん第一世ガ露
 西亞。埃地利聯合軍ヲ破リタル狀況ニ勞勞タルモノアリ
 シカバ、即チ陸軍歩兵大尉小畑敏四郎ニあうすてるりつ
 つ戰史トノ比較講演ヲ爲サシメ、之ヲ觀開アリ、元帥公
 爵大山巖。奥元帥。長谷川參謀總長以下統監部陪覽將官
 等ニ陪聽ヲ賜フ。午後二時十分同所ヲ出御、四時五分大

あうすてるりつつ戰史トノ比較講演ヲ觀開

十五日ノ御
統裁

本營ニ遷御アラセラル。夜ニ入りテ長谷川參謀總長登營
 ス。即チ還幸後ニ於ケル兩軍ノ狀況竝ビニ司令官ノ決意
 處置ヲ奏セシメラルル事昨日ノ如シ。又侍從武官若見虎
 治ヲシテ夜間行軍ノ狀態ヲ觀察セシメラル。十五日ニハ
 午前十時ヨリ大本營内天主閣ニ於テ演習ヲ御統裁アリ、
 陸軍歩兵少佐黒澤準ノ名古屋附近平野ニ於ケル古戰場ニ
 關スル講演ヲ叙開、正午御座所ニ入御アラセラレ、若見
 侍從武官ヲシテ行軍ノ狀態ヲ觀察セシメラル。又十六日
 ハ演習最終日ニシテ拂曉戰アルヲ以テ、午前六時三十分
 大本營御出門、西春日井郡豊山村大字豊場字岡山高地ニ

十六日ノ御
統裁

圖書寮

大演習ノ
勅語

テ御統裁アリ、午前九時十五分演習中止ヲ命ジ、御野立
 所ヨリ豊山尋常高等小學校ニ移御、暫時御休憩ノ後、參
 謀本部部員陸軍歩兵大尉小川恒三郎ノ小牧戰史ヲ叙開、
 同校南方ノ講評所ニ出御、長谷川參謀總長ニ命ジテ大演
 習經過ノ講評ヲナサシメ、將卒一同ニ左ノ勅語ヲ賜フ。
 演習ノ經過ニ關シテハ參謀總長ヲシテ講評セシメタ
 リ愛ニ親シク特別大演習ヲ統監シ我軍ノ進歩顯著ニ
 シテ其成績ノ良好ナルヲ認メ朕深ク之ヲ嘉ミス然レ
 トモ世界ノ軍事ハ屢々トシテ止マス汝將卒益々奮勵
 研鑽シ以テ干城ノ重任ヲ完ウセンコトヲ期セヨ

午後二時五十分勝川停車場御發車、三時四十分大本營ニ
還御アラセラル。其ノ間ノ御動靜ハ左ノ御製ニヨリテ拜
スベシ。

癸丑冬統監陸軍大演習於參尾之野有此作

講軍場設在岡山 參謀總長列隨班 小學庭中將校集

朕爲統監兩軍間 向衆通問勝敗決 總長輔朕斷案完

臨終慰勉發訓示 天氣晴來心自寬

斯クテ大演習ノ統裁ヲ濟マセラレタルヲ以テ、更ニ十
七日觀兵式ヲ行ハシム。即チ午前九時十分御出門、名古
屋練兵場ニ著御、大山元帥以下文武官。外國武官ニ謁ヲ

觀兵式

名古屋ヲ發

產業御獎勵

賜ヒ、諸兵ヲ親閱アラセラレ、十一時四十分還御、午後
二時三十分再ビ御出門、鶴舞公園内宴會場ニ臨御、貞愛
親王。載仁親王ヲ始メ大山元帥以下大演習關係諸員ニ宴
ヲ賜ヒ、其ノ勞ヲ御嘉賞アリ、四時十五分大本營ニ還御
アラセラル。翌十八日午前七時四十五分大本營御發聲、
午後五時四十分宮城ニ還幸アラセラル。

今次陸軍特別大演習ニ當リ、產業御獎勵ノ思召ヲ以テ、
侍從男爵徳川義恕ヲ愛知時計電機株式會社。鈴木提琴工
場。合資會社愛知物産組合。帝國然絲織物株式會社。原
名古屋製絲所。日本陶器合名會社。豐田式織機株式會社。

供奉員

三重紡績株式會社愛知分工場ニ、侍從原恒太郎ヲ合資會社三龍社。碧海郡新川村外三村ノ耕地整理地ニ遣シ、實況ヲ觀察セシメ、或ハ愛知縣ノ產業開發功勞者勳四等神野金之助。同岡谷惣助等十三名ヲ大本營ニ召シ、宮内大臣伯爵渡邊千秋ヲシテ其ノ狀況ヲ聽取奏上セシメラル。又愛知縣及ビ名古屋市ニ各金參千圓ヲ、愛知縣第一師範學校ニ金千圓ヲ賜フ。

猶ホ供奉ヲ命ゼラレタル者ハ、宮内大臣伯爵渡邊千秋。宮内大臣秘書官上野季三郎。宮内書記官栗原廣太。同大木榮雄。内大臣秘書官日高秩父。主馬頭子爵藤波晉忠。

圖書寮

御服制

侍從長公爵藤司照通。侍從武官長内山小二郎。侍從日野西資博。同田内三吉。同原恒太郎。同大炊御門家政。同子爵海江田幸吉。同男爵德川義恕。侍從武官關野謙吉。同若見虎治。同島内桓太。同奥村拓治。侍醫相磯健。同土屋岩保等ナリ。侍從職日記・侍從武官府日誌・典侍日記・幸寺錄・官報・愛知縣廳文書

十五日、御服ニ關スル件ヲ御裁可アリ。之ヲ公布シ、十二月一日ヨリ施行セシメラル。仍チ御服ハ別ニ定メタルモノヲ除クノ外、陸軍式及ビ海軍式トシ、前者ハ正裝。禮裝。通常禮裝。軍裝及ビ略裝ノ五種、後者ハ正裝。禮裝。通常禮裝及ビ軍裝ノ四種ト定メラル。官報

朝鮮駐劄軍
支那派遣隊
ノ現狀ヲ叙
聞

是ノ日、元帥伯爵東郷平八郎病ヲ東京帝國大學病院ニ
養フヲ以テ、侍從落合爲誠ヲ病床ニ遣シ、葡萄酒ヲ賜ヒ
テ慰問セシム。恩賜錄・侍
從職日記

二十日、午前十時三十分表御座所ニ於テ朝鮮駐劄軍司
令官陸軍中將男爵安東貞美竝ビニ前中支那派遣隊司令官
陸軍少將與倉喜平ニ謁ヲ賜ヒ、管下ノ狀況ヲ叙爾アラセ
ラル。侍從職日記・侍
從武官府日記

大禮使官制
公布

二十一日、大禮使官制ヲ裁可アラセラレ、之ヲ公布シ、
翌二十二日大勳位功二級貞愛親王ヲ大禮使總裁、内務大
臣原敬ヲ大禮使長官、内閣書記官長山之内一次。宮内次

陸軍砲工學
校ニ行幸

官河村金五郎ヲ大禮使次官トナス。官報
是ノ日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、しどにニ赴
任スル總領事清水精三郎ニ謁ヲ賜フ。侍從職日記・侍從
武官府日記・御編
參拜錄
官報

二十二日、午前九時三十分御出門、陸軍砲工學校ニ行
幸、便殿ニ於テ邦彦王ヲ始メ參集ノ將校ニ謁ヲ賜ヒ、校
長陸軍少將小原傳ニ先導センメ講演場ニ出御、陸軍砲兵
少尉長澤重五ノ「皇國ニ於ケル藥莢製造ノ發達」及ビ陸
軍工兵少尉岩崎安美ノ「軍用輕發動機ニ就キテ」ト題ス
ル御前講演ヲ叙聞ノ後、卒業證書授與式場ニ臨御、優等

徳川慶喜亮

諱 同

學生ニ賞トシテ軍刀。圖引具ヲ賜ヒ、正午還幸アラセラ
ル。侍從職日記。典侍日記。侍從
武官府日誌。幸寄録。官報

是ノ日、麝香間祇候従一位勳一等徳川慶喜病篤キヲ以
テ特ニ旭日桐花大綬章ヲ授ケラル。尋イデ薨ズ。仍リテ
二十四日侍従高辻宜麿ヲ勅使トシテ其ノ邸ニ遣シ弔問セ
シメ、二十九日更ニ勅使侍従子爵海江田幸吉ヲ遣シ、祭
料金貳千圓。幣帛料。神饌料。樽壹對ヲ賜ヒ、左ノ諫
問ヲ傳宣シ、玉串ヲ供セシム。

國家ノ多難ニ際シテ關外ノ重寄ニ膺リ時勢ヲ察シテ
敢テ致シ皇師ヲ迎ヘテ誠ヲ表シ恭順綏撫以テ王政ノ

圖 書 寮

慶喜略歴

復古ニ資ス其ノ志洵ニ嘉スヘシ今ヤ溘亡ヲ聞ク曷ソ
痛悼ニ勝ヘン茲ニ侍臣ヲ遣シ賻ヲ齎シテ臨ミ弔セシ
ム

翌三十日重ネテ侍従伯爵清水谷實英ヲ勅使トシテ上野公
園内葬場ニ遣シ玉串ヲ供セシメラル。

因ニ慶喜ハ徳川齊昭ノ子ニシテ、初メ一橋家ヲ嗣ギ、
後、慶應二年八月宗家ヲ相續シ、征夷大將軍ニ任ゼラレ、
第十五代將軍ト爲リシガ、幾モ無クシテ時運ヲ察シ大政
奉還ノ上表ヲ奉リ、征夷大將軍ヲ辭シ、一意恭順謹愼セ
リ。明治十三年五月正二位ニ復シ、翌六月従一位ニ陞セ

ラレ、同三十五年華族ニ列シ公爵ヲ授ケラレタリ。侍從
職日記

二十三、三日、新嘗祭ヲ行ハルルモ出御アラセラレズ。侍
從

職日記・侍從武官府日記
典侍日記・祭冠録・官報

二十五日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、海外ヨリ歸
朝セル馬政官丹下謙吉。陸軍歩兵大佐村岡長太郎ニ謁ヲ
賜フ。又表御座所ニ於テ進級會議列席ノ爲メ上京セル第
一艦隊司令長官海軍大將男爵出羽重遠以下各鎮守府司令
長官等九名ニ謁ヲ賜ヒ、管下ノ狀況ヲ叙聞ノ後、千種間
ニ於テ午饗ノ御催アリ、依仁親王。博恭王ヲ召シ、海軍

出羽司令長
官等ニ陪食
ヲ賜フ

大臣男爵齋藤實。宮内大臣伯爵渡邊千秋。元帥子爵井上
良馨。海軍大將男爵片岡七郎。同上村彦之丞。同伊集院
五郎。同三須宗太郎。出羽司令長官等ニ陪食ヲ賜フ。侍
從

職日記・侍從武官府日記
誌・拜謁參拜録・官報

是ノ日、亞米利加合衆國大統領ウッどろー。ウいるそ
ん二女ジエッシー。ウッどろー。ウいるそん結婚式舉行
ニヨリ、慶賀ノ電報ヲ大統領ニ發送アラセラル。外交慶
報官
弔録

陸軍大學校
ニ行幸

二十六日、午前九時三十分御出門、陸軍大學校ニ行幸
便殿ニ於テ貞愛親王。載仁親王。邦彦王。鳩彦王。趁彦

參謀本部御立寄

王。成久王ヲ始メ元帥陸軍大將伯爵奧保鞏以下參謀本部各部長及ピ同校幹事等ニ賜ヲ賜ヒ、校長陸軍少將大井菊太郎ニ先導セシメ講堂ニ臨御、優等學生陸軍歩兵中尉西原貫一ノ「優勢ナル敵ニ對スル攻撃ニ就テ」ノ講演等ヲ叙聞、卒業證書授與ノ後、優等學生ニ賞トシテ軍刀ヲ賜フ。正午同校御出門、參謀本部ニ御立寄、貞愛親王以下三十九名ニ午餐ノ陪食ヲ賜ヒ、午後二時二十分還幸アラセラル。侍從職日記・皇太

二十七日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、軍艦金剛ヲ英吉利國ヨリ回航シテ歸朝セル海軍大佐中野直枝以下十

侍從職日記・皇太
武官府日記・奉陪錄・官報

出羽重遠ヲ軍事參議官ニ補ス

數名ニ謁ヲ賜フ。翌二十八日ニモ亦軍艦金剛回航員ニ謁ノコトアリ。侍從職日記・侍從武官府

二十八日、午後三時御内儀ニ於テ皇太后ニ御對面アラセラル。侍從職日記・皇太

十二月一日、第一艦隊司令長官海軍大將正三位勳一等功二級男爵出羽重遠ノ本職ヲ免ジ、軍事參議官ニ補シ、吳鎮守府司令長官海軍中將從三位勳一等功二級加藤友三郎ヲ第一艦隊司令長官ニ、海軍艦政本部長兼海軍將官會議議員海軍中將從四位勳二等功三級松本和ヲ吳鎮守府司令長官ニ、横須賀海軍工廠長海軍中將從四位勳二等功三

侍從職日記・皇太
后宮職日記・官報

侍從職日記・侍從武官府
日誌・拜謁參拜錄・官報

級加藤定吉ヲ第二艦隊司令長官ニ轉補シ、海軍將官會議
 議員海軍大將男爵三須宗太郎ノ本職ヲ免ジ待命トシ、第
 二艦隊司令長官海軍中將伊地知季珍ヲ海軍艦政本部長兼
 海軍將官會議議員ニ轉補ス。侍從武官府
日記・官報

二日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、海外ヨリ歸朝セ
 ル海軍機關少佐岸本信太。陸軍砲兵大尉永持源次郎ビニ
 海外ニ赴ク陸軍歩兵大尉長谷部照悟。同騎兵中尉土屋義
 幹ニ謁ヲ賜フ。侍從職日記・侍從武官府
日記・拜謁參拜錄・官報

六日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、海外ヨリ歸朝セ
 ル海軍造船中監野中季雄。海軍造船少監有田延。同吉田

圖書寮

安。陸軍騎兵少佐市川一郎ニ謁ヲ賜フ。侍從職日記・侍
從武官府日記・侍
拜謁參拜
錄・官報

十日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、墨西哥合衆國特
 命全權公使のいす・じえー・ばるどーノ伴ヒテ參内セル
 公使館附新任陸軍武官陸軍少將まぬえゑる・えめ・やえら
 すけすヲ御引見、又表御座所ニ於テ陸軍兵器本廠長陸軍
 少將檜岡金次郎以下兵器支廠長二十一名ニ謁ヲ賜フ。侍
從

武官府日記・侍從職
日記・謁見錄・官報

十一日、表御座所ニ於テ露西亞國ニ歸任スル特命全權
 大使男爵本野一郎ニ謁ヲ賜フ。侍從職日記・拜
謁參拜錄・官報

御風氣ニ涉ラセラル

十二日、光格天皇御例祭アリ。御風氣ニヨリ出御アラセラレズ、掌典長岩倉具綱ヲシテ代拜セシム。猶ホ十五日ノ賢所御神樂ノ儀、二十四日ノ後櫻町天皇百年御式年祭ニモ亦出御アラセラレズ、同人ヲシテ代拜セシム。但シ後櫻町天皇百年御式年祭山陵祭ニハ勅使トシテ掌典子雷河鑄公篤ヲ参向セシメラレタリ。侍従職日記・官報

十五日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、英吉利國領加奈陀ヨリ歸朝セル農商務省技師井上禱之助ニ謁ヲ賜フ。侍従職日記・侍従武官府

二十二日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、海軍機關少

圖書寮

近衛・第一
兩師團長ヲ
召シテ管下
ノ狀況ヲ叙
聞

るによリ佛
國公使信任
狀據呈

尉候補生練習ノ爲メ支那沿海ニ渡航スル海軍大佐南里團一以下四十五名ニ謁ヲ賜フ。又翌二十三日海軍中佐鈴木豐吉以下四十五名ニ謁ヲ賜フ。侍従職日記・侍従武官府

是ノ日、表御座所ニ於テ近衛師團長陸軍中將男爵山根武亮。第一師團長陸軍中將一戸兵衛ニ謁ヲ賜ヒ、管下ノ狀況ヲ叙聞アラセラル。侍従職日記・侍

二十三日、午前十一時三十分鳳凰閣ニ出御、佛蘭西國特命全權大使いーじえーぬ・るい・じよるじゆ・るによーヲ御引見、信任狀ヲ受ケサセラレ、尋イデ隨伴ノ大使館附陸軍武官陸軍中佐るん。大使館附海軍大尉克

船越衛壽ズ

る・ぶりらんすきーヲモ亦引見アラセラル。侍從職日記、
報 見録、官

是ノ日、樞密顧問官從二位勳二等男爵船越衛壽篤キヲ
以テ、特ニ位一級ヲ進メ正二位ニ敘シ、且ツ勳一等旭日
大綬章ヲ授ケラル。薨ズルニ及ビ祭案料ヲ賜ヒ、二十六
日送葬ニヨリ侍從大炊御門家政ヲ勅使トシテ其ノ邸ニ遣
シ幣帛ヲ賜フ。衛、維新ノ際參謀トシテ軍務ニ從事シ、
後、諸官ヲ經テ地方長官。元老院議官。宮中顧問官ヲ歷
任シテ現官ニ累進シ、在職中功績抄カラザリシヲ以テナ
リ。恩賜條、
官報

ばら盛國特
派大使來朝

二十五日、曩ニ明治四十三年墨西哥合衆國ニ於テ獨立
百年記念祝典ヲ行フニ當リ、特命全權大使男爵内田康哉
ヲ特派大使トシテ遣シ、之ニ參列セシメ給ヒシヲ以テ、
同國臨時大統領ケルくとりあの・うえるた之ニ酬ユル爲、
特命全權公使ふらんしすこ・れおん・で・ら・ばらヲ特
派大使ニ任命シ、信任狀ヲ捧呈セシメントス。其ノ一行
帝國ニ來朝スルヤ、式部官渡邊直達。同加藤泰通ヲ接待
員ト爲シ、大使ヲ帶室ノ賓客トシテ遇セシメ、且ツ勳一
等旭日桐花大綬章ヲ贈與シ給フ。是ノ日午前十一時五十
分ばら大使參内スルニ當リ、近衛騎兵一小隊ヲ附シテ儀

ばら特派大使ヲ御引見

仗ト爲シ、其ノ儀ヲ盛ナラシメ、又宮中ニ於テハ式部長官伯爵戸田氏共等ヲシテ之ニ接セシム。式部官、大使參内ノコトヲ奏ス。是ニ於テ天皇御正裝ニテ鳳凰間ニ出御アリ、ばら特派大使即チ同國特命全權公使るいず・じえい・ばるどーと共ニ、戸田式部長官ノ誘導ニテ御前ニ參進スルヤ、之ヲ御引見アリ、大使使命ヲ奏シ、且ツ信任狀ヲ捧呈ス。其ノ譯文ニ曰ク、

墨西哥合衆國臨時大統領陸軍中將ゲルクトりあの・うえるた隨テ予ノ良友ニシテ威徳隆盛ナル日本國皇帝（御名）陛下ニ白ス

圖書寮

墨西哥國民ハ墨西哥國獨立第一百年祭執行ノ際先考（御名）陛下カ特派大使ヲ送ラレテ特ニ同情ヲ表彰セラレタル聖旨ニ報ヒンカ爲陛下竝ニ日本國民ニ對シテ深厚ナル感謝ノ意ヲ致サンコトヲ切ニ希望スルヲ以テ元當國臨時大統領ニシテ他ニ尙ホ外務大臣亞米利加合衆國駐劄特命全權大使伊太利國特派大使上院議員等ノ重職ヲ奉シタル伊太利國ぐらん・くろあー・ど・ろるどる・ど・ら・くーろんぬ・ちたりー・動章、同國ぐらん・くろあー・ど・ろるどる・ど・さん・もーりーす・え・さん・らざーる動章、清國

雙龍寶星二等一級勳章等ヲ佩用スルふらんしすこ。
 れおん・で・ら・ばら氏ヲ特派大使ニ任命セリ此ノ
 重任ヲ帯ヒタルで・ら・ばら氏ハ前顯感謝ノ意ヲ奏
 上スルト同時ニ予カ日墨兩國間ノ誠實ニシテ不滲ナ
 ル友誼ヲ希望スルコトヲ以聞スヘシ
 陛下ニ於テで・ら・ばら氏ヲ優遇アラセラルヘキコ
 トヲ確信スルニ因リ氏カ予ノ名ヲ以テ陳奏スル所特
 ニ墨西哥合衆國ト日本帝國トノ間ニ幸ニ存在スル親
 善ノ關係ヲ日一日ニ鞏固ニシ且其ノ増進スルヲ見ル
 ハ予ノ満足スル所ナルコトヲ陳述スルトキハ盡ク之

圖書寮

ヲ信用アラセラレンコトヲ請フ予ハ此ノ機ニ附シ重
 ネテ茲ニ恭敬親愛ノ衷情ヲ表ス
 陛下ノ良友
 予のくとりあの・うえるた
 ト。天皇即チ之ニ應ヘ勅語ヲ賜フ。儀終レバ更ニ其ノ隨
 員一等書記官のるべると・どみんげす。陸軍少將みげる。
 べるなゝる。陸軍大佐えみりお・じえい・あれまん。二
 等書記官ろどるふお・ねるがわ。三等書記官がのくとり
 る・じい・がえらすくえず。同まにゆえる・ぐあすくえ。
 陸軍少佐ふおすと・べせるりゝる。外交官補るい・がる

ばら特派大使ニ陪食ヲ賜フ

ケあんヲ御引見アリ。猶ホ皇后ハ桐間ニ於テばら特派大使以下ヲ引見アラセラル。尋イデ特派大使等千種間ニ退下ス。是ニ於テ天皇午餐ヲ御催アリ、皇后ト俱ニ午後零時三十分豊明殿ニ出御、貞愛親王。載仁親王。同妃智恵子。邦彦王妃倪子ヲ召シ、ばら特派大使以下隨員並ビニばるど一公使。同妻。公使館一等書記官えふれん。れぼれど。公使館附陸軍武官陸軍少將まぬえる。えめ。ケえらすけす及ビ内閣總理大臣伯爵山本權兵衛。宮内大臣伯爵渡邊千秋。外務大臣男爵牧野伸顯。式部長官伯爵戸田氏共。侍從武官長内山小二郎。侍從長公爵鷹司照通等ニ

圖書寮

陪食ヲ賜フ。此ノ間、式部職樂部ノ歐洲樂演奏アリ。祝賀行進曲。ういんぞるノ愉快ナル夫人歌劇序曲。ろーえんぐりん劇意想曲。めきしと民歌ら。ばるま。戀物語。賤族之愛。ぼれる。すべいん舞踏曲ヲ奏ス。御食後、皇后ト俱ニ千種間ニ於テ猶ホ御款談アリ、式部官吉田要作。皇后宮職御用掛山中貞子御通譯ヲ奉仕ス。二時入御アラセラル。侍從職日記。侍從武官府日記。外資參内録。外資接待録。官報。二十六日、午前十時三十分御出門、帝國議會開院式ニ臨御アラセラレ、恒例ノ如ク勅語ヲ賜ヒ、十一時二十五分還幸アラセラル。侍從職日記。侍從武官府日記。官報。帝國議會録。

勳章親授式

法律取調委員
會關係者
ニ恩賞

二十七日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、勳章親授式ヲ行ハセラレ、正三位勳一等穗積陳重。同股野塚ニ旭日大綬章ヲ、正三位勳二等男爵菊池大麓。正四位勳二等岡野敬次郎ヲ勳一等ニ敘シ、瑞寶章ヲ授ケラル。又正四位勳二等富井政章。從三位勳二等河村護三郎。判事正三位勳二等横田國臣。判事正四位勳二等富谷銈太郎。檢事正四位勳二等平沼賦一郎ニ旭日重光章ヲ賜フ。蓋シ法律取調委員會廢止ニヨリ曩ニ陳重等委員ノ職ヲ奉ジテ勳勞鈔カラザリシヲ以テナリ。其ノ他關係者ニモ亦恩賞アリ。

正午千種閣ニ出御、午餐ノ御催アリ、貞愛親王。邦彦

重臣ニ陪食
ヲ賜フ

王ヲ召シ、元帥公爵大山巖。樞密顧問官侯爵松方正義。從一位公爵德大寺實則。内閣總理大臣伯爵山本權兵衛以下各國務大臣。元帥伯爵奧保鞏。同子爵井上良馨。樞密院副議長伯爵芳川顯正以下各樞密顧問官等ニ陪食ヲ賜フ。

侍從職日記。侍從武官府
日誌。授與式錄。官報

二十八日、午後五時四十分貞愛親王ニ晚餐ノ陪食ヲ賜フ。侍從職
日記

二十九日、歳末ニヨリ參内ノ貞愛親王。載仁親王。邦彦王。恒久王。博恭王。成久王。聰子内親王。王世子李垠ニ謁ヲ賜フ。猶ホ三十日ニハ鳩彦王。稔彦王ニ、三十

一日昌子内親王。房子内親王ニ賜ヲ賜ヘリ。侍從職 日記

三十日、午後六時侯爵松方正義ヲ召シ、表御座所二ノ

間ニ於テ晚餐ノ陪食ヲ賜フ。侍從職 日記

節折ノ儀

三十一日、午後一時十五分鳳凰閣ニ出御、節折ノ儀ヲ行ハセラル。御服ハ御小直衣ナリ。侍從子爵東園基愛。

侍從原恒太郎。同男爵澤宣元。同子爵松浦靖奉仕ス。侍從職 日記

侍從職 日記

是ノ日、瑞典國皇太后そふいー・ういるへるみぬ・ま
りあんぬ・あんりえつと崩ゼル趣ヲ皇帝ぐすたふ第五世
ヨリ報セラレタルヲ以テ、慰問ノ電報ヲ發送アラセラル。

尋イデ翌大正三年一月八日葬儀ニ當リ同地駐劄特命全權
公使内田定植ヲ遣シ、柩前ニ花環ヲ供セシメ、後五月二
十七日弔意ノ親書ヲ發送アラセラレタリ。外交 慶弔 錄。官報

3204 419

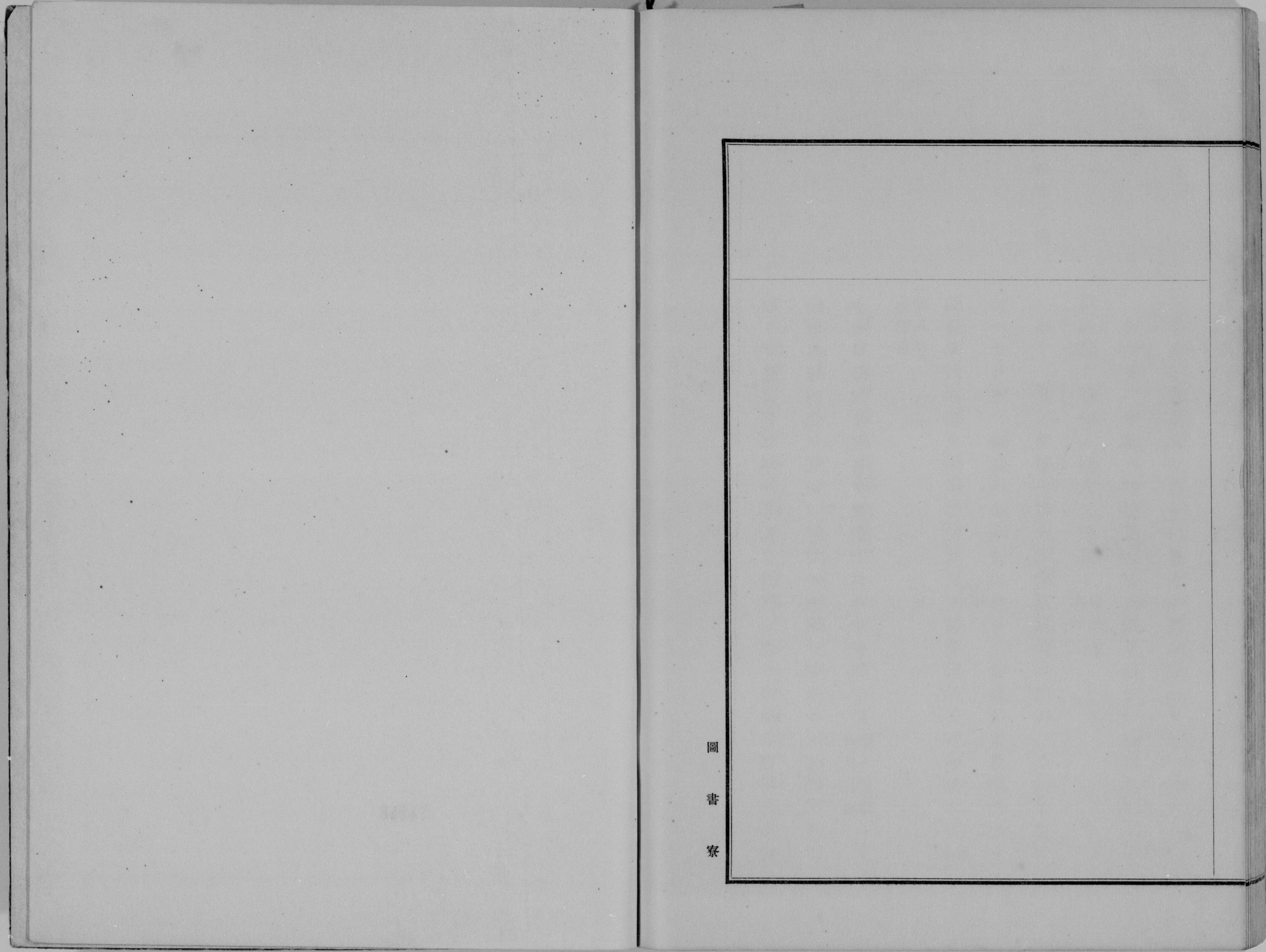


圖
書
寮

3204 420

64047

3204 421

